



さくら

題字 足立区長 近藤 やい

足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 市村 智
編集 広報委員会
発行日 2021年11月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



「運動会」 古千谷小 3年 大塚 圭人 作

目次

令和3年度全員研修会	2
老後を考える	3
ボランティア活動	4
ぶらり足立	5
健康づくり事業	6
こども食堂支援協議会	7
社会福祉協議会 新会長挨拶	8

コロナ禍での主任児童委員の活動

足立区民生児童委員協議会 主任児童委員長 首藤広行



昨年から続いています新型コロナウイルスの感染拡大によって、子どもたちの生活様式も大きく様変わりしてしまいました。学校の先生方も、ソーシャルディスタンスに配慮して、生徒一人一人にタブレット端末を持たせてのリモート

併用授業等、色々な戸惑いの中で展開している様です。私の担当しています中学校も、本来ならば昨年六十周年記念式典が開催されるべきところ、コロナ感染拡大にて、色々な制限の中、今年に規模を縮小しての開催となりました。

この様な中、主任児童委員会では、学校に行く機会が減ったのを機に、主任児童委員活動紹介のポスターを作成し、足立区内の全小・中学校、幼稚園・保育

園・児童館にポスターを配布すると同時に、保護者宛てにリーフレットを作成して配りました。

今の子どもたちの抱えている貧困、児童虐待、不登校、最近特に問題になっているヤングケアラー等、様々な問題に対して、児童相談所、福祉事務所、保健所、こども支援センターげんき等の関係機関や民生・児童委員と連携を取りながら、情報収集、問題解決に取り組みたいと考えています。

その為には、関係機関におかれましても、速やかな情報開示をお願いしたいと思います。保護者の皆様も、不安やストレスを抱えての生活だと思いますが、主任児童委員が、聞き役になり、不安の解消に少しでもお役に立てるよう、一人一人が行動に責任をもち、これからも活動して参る所存です。



令和3年度全員研修会（書面開催）について

令和3年8月5日に予定されていた全員研修会は4回目の緊急事態宣言が発令され中止となりました。

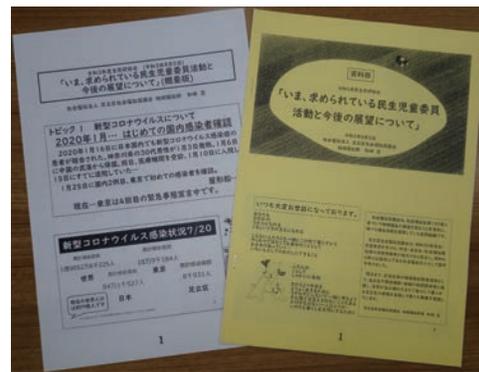
後日、送付された研修会資料のテーマが「いま、求められている民生児童委員活動と今後の展望について」となっており、コロナ禍で民生・児童委員としての今後の活動を考えることを目的とした内容でした。コロナ禍における暮らし方の変化と生活への影響により生活困窮・健康被害・機会喪失・孤立分断から生まれる問題が数字で示されており、新型コロナの影響が深刻な問題を引き起こしている現状がよく理解できました。また、コロナ禍での見守り・安否確認・相談支援などの各地の民児協の取り組みや足立区内の団体等による活動も知ることができ、頭が下がる思いです。

資料にはコロナ禍における民生・児童委員に期待される役割が書かれていますが、不要不急の外出を控え、非接触対応をせざるを得ない状況で地域の集まりがほとんど中止となる中、支援の対象者の情報を得られず、支援者と繋がれずに見逃がすことを懸念してい

ます。高齢者人口と一人暮らしの増加を考えると、地域との関わりを持たない孤立者も増え続けることが予想され、孤立・困りごとに対しての支援も増加すると思われま

す。今後、民生・児童委員は地域共生活動の担い手としてさらに多くの対応が迫られると思います。コロナ禍で新たな取り組み方を模索しながら、できることから活動を始めたいと考えています。

（東栗原地区 益塚賢治 記）



11 地区善行の子どもたち

11地区では、地域の模範となる善行を行った青少年を表彰することにより、青少年の向上を奮起させ、青少年の健全な育成を図ることを目的としています。対象者は小学5年生から中学3年生の児童生徒です。昭和、平成、令和の時代を40年間善行表彰が続いています。善行の子どもたちが多くいる中、心にとまった出来事を紹介いたします。

新型コロナという未曾有の時、ベルmont公園を通



▲清掃活動の様子

りがかった地区対役員が、子どもたち7人くらいで周辺を一生懸命掃除しているので声をかけました。話を聞くと「もう3年くらい前から、第1・第3土曜日に後輩たちにも声をかけ『ベルmont公園ゴミ0少年少女隊』と称して清掃活動を行っています」とのことでした。ベルmont公園の管理人の方が、事故のないように見守ってくださっていました。ポイ捨てする人もいる中、継続して活動を行うことで、町をきれいにする心が身についていることでしょう。

次に令和元年10月の台風19号による小学校の避難所開設において、児童がトイレ等の案内や避難住民の手助けを行い、毛布や飲食物配布の際も備蓄倉庫からの運び出しを手伝い、避難所のスムーズな運営ができたという内容です。もう1校の小学校避難所の際も避難者への食事の準備を手伝うなど、人手不足の避難所に大きく貢献してくれました。

地区対ではこれからも善行者を育てていきたいと思

います。（青少年対策11地区 梅田伍子 記）



「老後を考える」サロン 本木関原 男暖会（もみじマークのマンダム）



▲サロンのメンバー

毎月第4金曜日午前10時、いつもの会場に集合します。メンバーが揃い、挨拶もそこそこに各自用具を準備して皆で決めた清掃コースへ出発です。徒歩で約1時間の清掃活動です。

本会の活動目的の中に、清掃活動を通して「地域を知る、見直す、歴史等を思い出して語る」をテーマに掲げています。地域にある八幡神社、商店街にあった映画館跡の建物、銭湯の跡等各々の記憶を話し合いな

がら、当時の景観を思い起こしたり、植木や草花を見て季節感を味わったりして歩きます。

現在はコロナ禍での活動となり、集合時は会場に入る前に、手のアルコール消毒やマスクの着用には皆で気を付けております。外の清掃活動が終わると、短時間で各自気付いたこと、次回の集合日時と活動予定を確認してから解散となります。

以上のような話をすると、清掃活動ばかりしているサロンと間違われてしまいそうですが、本来の目的は、リタイヤした男性の孤立化、引きこもりが増え地域社会との疎遠化を避ける一助となるような活動を目指しています。また「男性の居場所、役立つこと」について話し合い、楽しいことや地域社会との関わりについて考え「自分の街を知る、見直す」をテーマに清掃活動を通し交流を図る行動的で楽しいサロンを目指しています。

通常は、茶話会や男の手料理で食事会も開催し、親睦を深めています。

まさに、もみじマークのマンダムです。

（7地区 鶴岡一郎 記）

「子どもたちは いま」金井新体操クラブ

私は足立区で40年近く金井新体操クラブにて指導してきました。

クラブの活動はジュニア大会、中学大会をはじめとする多くの試合だけでなく、毎年開催される『日本体操祭』の参加を長年続けています。その他、スポーツ祭典、スポーツカーニバル、地域のふれあい祭り、体育館のこけら落とし、運動会の賛助出演、小学校の体験教室等の行事に参加させていただき、子どもたちも地域の楽しさを知ってもらい、発表の場にてありがたく演技させていただいています。

新型コロナウイルスの影響により、人間関係が薄くなっているように感じます。子どもたちの中には、大会がなくなり、目標を見失って、どうしたらよいか分からなくなってしまう子もいました。子どもたちの育ちに影響がでているのではないかと心配をしています。

このような状況の中で、今、何ができるのかをスタッフ、指導者で考えながら、情報交換をして、とにかく子どもたちが運動不足にならないように声かけをし

ていくことにしました。試行錯誤しながら、昨年の4月からオンラインレッスンを始め、様々な作品を動画で学びながら、音楽に合わせて体を動かすように指導しています。

現在も新型コロナウイルスの終息が見えない中、我々指導者は、今日の目標、今月の目標を決めて、これからも子どもたちと向かい合いながら、声かけをしていきます。また、一人ひとりの良いところを褒めてあげながら、一歩ずつ前を向き、新体操を通して子どもたちの心身の成長を見守っていきたいと思います。

（足立区新体操連盟名誉会長 金井新体操クラブ主宰 金井ムツ子 記）





千住を元気なまちにするために 絆のあんしんネットワーク連絡会に参加



人生100年時代の暮らし方～「千住を明るく元気なまちにしよう！ 2021」実践プランをテーマに6月28日、絆のあんしんネットワーク連絡会が開催されました（地域包括支援センター千住西主催）。当日は絆のあんしん協力員、町会、自治会の役員、訪問看護師、ダーツ倶楽部会員など、千住地域で活躍するさまざまな立場の37名が集合。第一合同3地区からも11名の民生・児童委員が参加して、高齢者が孤立せず地域で元気に暮らすためにできることを話し合いました。

テーマは千住西エリアの課題を踏まえ、①健康の維持 ②孤立の防止 ③地域での活躍 ④老いへの備えの4つ。参加者は6つのグループに分かれ、テーマごとに2021年に「できること」「やってみたいこと」を考えました。

「情報弱者になりがちな、高齢者向けのスマホ講座の開催を。日常的な安否確認にも役立つ」「ダーツ倶楽部は男性高齢者の孤立防止に有効。体験会でもっと参加を呼びかけたい」「終活講座をぜひ。身辺整理を

自分事として考える良い機会に」「高齢者がボランティア意識をもてる活動をすすめたい。自分は役に立つという気持ちは元気の元」等々…コロナ禍で途切れがちな絆を取り戻す、実現可能な提案が次々に出されました。次回は出された提案の具体化について話し合う予定です。

（3地区 杉本和子 記）



▲連絡会の様子

「ボランティア活動」読んで 作って 楽しんで 絵本文庫「しずく」 （興野2丁目）ー地域の子どものための居場所としてー



あれから10年…。東日本大震災に背中を押されるように開いた絵本文庫「しずく」です。いつか開こうと思っていましたが、今やれることをやれる場（自宅）でと始めました。

地域の子どもたちや子育て中の大人にも絵本を楽しんでもらおうと、ためておいた絵本500冊と、第4日曜日に自宅を開放しました。子どもたちは書棚から思い思いに絵本を手にして、ページをめくりながら想像の翼を広げていきます。小さいお子さんを連れた親御さんは読んで聞かせています。

文庫では絵本を読むだけでなく、手作り絵本を作ることができます。お話を自分で考え、絵と文章を画用紙に書いて色ぬりをし、製本をします。手作り絵本の中にそれぞれのつぶやきがとても楽しく、気づきをもたらえます。作業をする中で親御さんと時には子育て中

の何気ない話をしたり、子どもたちとも絵本の話をつなげに学校の話や将来の話になったりします。

私は足立で生まれ育ち、児童館や学童保育室、図書館など長年子どもに関わる仕事を経験しましたが、子どもたちのために施設とは異なる家庭的な居場所を創りたいと思ってきました。大好きな絵本（言葉と絵）を通して、文庫でふれあうことができます。

現在はコロナ禍でお休みをしていますが、再開できる日まで選書や開催日程など工夫し、準備していきたいと思います。

※「しずく」は絵本作家のまついのりこさんの「絵本はたくさんの感動のしずくが集まっているもの」という言葉から名付けました。

（8地区 吉澤はる江 記）





ぶらい足立『都市農業公園』

都市農業公園は足立区の西、荒川沿い鹿浜地区に位置しています。

開園は1995年で自然とのふれあい、植物栽培、園芸、農業への理解と教育、区民の憩いのために作られました。

3月は公園内の桜が咲き、近隣の子どもや高齢者の方がたくさん訪れます。

6月は田植え体験、9月稲刈り体験、10月さつまいも掘りなど農園で作られる作物を利用して数多くの行事が計画され、年間来場者は35~40万人に達するそうです。

近頃ではコロナ感染防止でサイクリングが流行し、体力増強などの理由でたくさんの自転車愛好家が休憩所として利用されているそうです。

近隣の私たちは高齢の親や、孫の遊び場として連れて行くなど、利用価値はたくさんあります。

季節を問わず小学生が昆虫を探しに来園、また農作物の収穫を行って学校で体験できない野外学習を楽しんでいるそうです。

また、高齢の方々も青空の下で桜を見たり、稲刈りをしたり、広々とした公園で日頃のストレスを青空の下でリフレッシュされて帰るそうです。

私たち民生・児童委員も野外での行事を計画して気持ちさがスッキリする活動が出来たら高齢者や子どもに対して優しく対応できると感じます。

是非、秋の都市農業公園においでください。

(鹿浜地区 鈴木健治 記)



足立区立東島根中学校

ふりむくと	散りゆく桜と	新なる芽	ふりむくと	散りゆく桜と	新なる芽
ほのかにただよう	しあわせのかおり		ふりむくと	散りゆく桜と	新なる芽
ふりむくと	散りゆく桜と	新なる芽	ふりむくと	散りゆく桜と	新なる芽
ふりむくと	散りゆく桜と	新なる芽	ふりむくと	散りゆく桜と	新なる芽

中学生短歌コーナー



『海の主と人魚』

古千谷小 5年 櫛田 あん 作



千住あずま住区センター健康づくり事業



▲講座の様子

千住あずま住区センターの健康推進部では『若々しく生きるために』を2021年度のテーマに活動をしています。

感染予防対策を万全にして、令和3年7月2日(金)に管理栄養士の長谷川いづる氏を講師にお迎えして『免疫力!アップ!』の講座を開催いたしました。長引くコロナ禍で自分の体を守る免疫力についてお話して頂きました。

◎免疫力を上げるポイント

免疫力は、食事(腸内環境を整える)、十分な睡眠、体温を上げる運動(ウォーキングと筋トレ)で維持・向上が可能である。

☆運動するときのポイント

人混みを避けて散歩する。1週間単位で、1日平均歩数8000歩以上を目指す。筋トレも自宅や職場で週に3日、1回2~3種目行くと足腰が弱りにくくなる。

☆手洗いのポイント

基本は流水と石鹼による手洗いでウイルスを洗い流す。手指消毒用アルコールによる消毒をする。

☆食事のポイント

腸内環境を整えるのに効果のある発酵食品や食物繊維を意識してとる(免疫細胞の約7割が腸内にある)。バランスに配慮した食事を心がける。

☆笑顔

笑いでNK細胞(ナチュラルキラー細胞:生まれながらに備えている体の防衛機構として働く細胞)が増え、免疫力が向上する。

お話をお聞きして印象に残った事は、栄養ドリンクを飲むより、主食+主菜+副菜をしっかりと噛んで食べることが大切であるということです。

(常東地区 齋藤祐子 記)

登校サポーター続けています

7年前、開かれた学校づくり協議会委員をしている小学校から、不登校気味の児童の登校サポートを依頼されました。当初は民生・児童委員として、登校する刺激になればと努めました。現在は、こども支援センターげんき教育相談課の「登校サポーター派遣事業」に対応する、非常勤職員という立場となっています。

携わって7年、対象児童が変わることはあっても、ゼロになることはありません。また、登校できても教室に入れぬ児童もいて、その対応のために別室サポートもあります。

仕事内容は、基本的には『朝迎えに行き、身支度のすんでいる児童を学校まで送ること』ですが、そんな対象者は長い経験の中で一人だけです。ドア越しに声を掛けると、親御さんが「起きません」「待ってますから、起こしてあげてください」は勿論、親を起こすことから始まる家庭もあります。果ては不登校に全く危機を感じないのか「明け方寝たので起きられません。今日は休みます」と言われる日もあります。それでも、ほとんどの児童は家さえ出れば、足取りの重い日もありますが、登校し普通に学校生活を送れます。

登校の道々いろいろ話をしてくれますが、家庭事情

が垣間見える話もあり、学校に報告します。

また、民生・児童委員として必要と感じたときは担当地域の民生・児童委員にも報告します。不登校の原因の多くは児童本人の問題ではなく、家庭環境にあると強く感じ、行政の横の連携はスムーズなのかと気になり余計なことかと思いつつも民生・児童委員としての対応も合わせて登校サポーターを続けています。

(6地区会長 田中礼子 記)



「おにた女の子にごはんをあげる」
西新井第二小 3年 鶴岡 優月 作



こども食堂支援協議会 ～誰かのために 一生懸命！～



こども食堂支援協議会は令和2年6月に活動を開始しました。

活動内容は市場から仕入れた青果物の応援即売会を定期的に開催し、その収益で食材支援、調味料・調理器具の購入費の全額負担を行っています。

他に、季節の果物支援や生鮮物の移動用にクーラーボックスの提供も行っています。

初めは販売箇所を探すことに苦労をしましたが、西新井大師山門前で即売会を行うことができ、その後は様々な方からのご紹介により、徐々に即売会を行う場所が増えていきました。令和3年7月現在、足立区内9か所と区外1か所の計10か所で開催しています。

応援即売会では新鮮な青果物と、食べることはできるが販売には適さない少しのキズや変色した品物も、カットするなど手を加えて安価で販売しており、お客様には大変好評を頂いています。

他にも様々な事情で朝食を食べることのできない小・中学生に対して「朝食プロジェクト」と称し、地域の食堂と提携して温かい手作りの朝食を提供する活動も行っています。

私たちの活動は多額の支援はできませんが、日々の販売活動をする事でこれからも継続可能な支援をしていけると信じています。

今後の目標は、販売箇所を増やし、更なる支援の拡大・拡充です。

こども食堂支援協議会は年齢、性別、国籍など全てにおいて垣根のない組織を目指しています。

私たちは子どもたちに直接触れ合う事はごさいませんが、お腹をすかしている子どもがいるならば、たとえ一人でも助けたいと思い活動を続けていきます。

(一般社団法人こども食堂支援協議会 鈴木康一 記)



▲青果物の応援即売会

こんなことがありました

金木屋の薫る垣根を曲がって、団地自治会の集会所にて、自治会長と担当民生・児童委員との顔合わせと情報交換をしました。

高齢化・個人情報の取り扱い・コロナ禍に自治会長は疲れ切っていました。住民の協力や理解も以前のように望めず、深夜に呼び出されたり、生繁る雑草と格闘する日々。足腰が弱って気掛りな老夫婦。対話を拒否する残留孤児の住民。認知症の夫と奇行を繰り返す妻。担当委員が見守りと包括への連絡も視野に入つつ状況を尋ねます。やるせない想いも受け止めながら。

他方で、長い間の働きかけで実現しそうな移動販売、学生を入居させるアイデアや他の団地との連携も提案してみたいという話題には心も明るくなります。そう言えば、別の団地の自治会長が高齢住民の「元気です」の黄色い目印を毎朝見回って、安否確認をしているという話をされていました。そういう方々のお蔭で何とか平穏な日常が保たれているのだと感じます。

地元根差す生活者としての自分たちに何ができるのか。改めて考えさせられました。

(竹の塚地区会長 小島千恵子 記)



社会福祉協議会新会長挨拶

足立区社会福祉協議会 会長 小久保 隆



この度、中田貢弘会長の後任として、足立区社会福祉協議会の会長に就任をさせていただくことになりました、小久保隆と申します。

民生・児童委員の皆様には、民生・児童委員在任中に大変お世話になりました。こうしてまた皆様方とお近づきになれる事は、大変ありがたく存じます。

ご承知のように、社会福祉協議会は、住民が主体と

なって地域福祉の向上を目指し、民生・児童委員と有識者の方々によって立ち上げた民間団体です。

現在は特にコロナ禍で、地域福祉の需要はますます増大しております。このような状況の中、新しい日常に合わせ工夫した活動で、地域福祉のさらなる向上を目指して参ります。

社会福祉協議会の活動は、会員会費や御寄付等々で運営されています。どうか活動の趣旨をご理解いただき、一人でも多くの方の御参加と御協力をお願い申し上げます。

リハビリに特化したデイサービス紹介

デイサービスでは、歌を歌い、折り紙をして、軽い運動そして昼食を摂り、午後には自宅に戻るということを思い浮かべる人が多いと思いますが、ここは「リハビリ」に特化したサービスを提供し、スポーツジムと言っても良い設備が揃えられている施設です。

デイサービスは、ご家族と利用者そして、地域包括支援センター、ケアマネジャーと相談をし、見学を重ね決めますが、この施設は「ここで運動をしたい」と利用者本人の希望で決まるとのことです。

利用者がそれぞれの機能回復や介護予防の目標を持って、職員は運動のサポートと共に、会話を大事にしているとのこと。職員や利用者から応援をしてもらえるのでリハビリも継続し易くなったとのこと。

知人利用者から「適度な運動ができうれしい」との声を聞きました。このようなリハビリに特化した介護施設が増えて欲しいと思います。

(広報委員会 記)

足立区は活動記録提出率100%継続中です

<訃報>第七合同19地区 高橋 和枝 (タカハシ カズエ) 委員 逝去 ここに謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

新型コロナウイルス蔓延の影響で、活動が自粛されるようになり1年以上が過ぎています。

これから先もコロナウイルスが根絶するとは考えられませんが「ウィズコロナ」という以前とは違った新しい生活様式になってくるように思います。

私たち広報委員もご多分にもれず、全員が顔を揃えての委員会はありますが、今まで同様「さくら」を通して地域の情報等を発信していきたいと思えます。

(東綾瀬地区 今井幸則 記)

- 小学生掲載絵画および中学生短歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。
- 原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。
- 皆様の原稿を募集いたします(原稿は未発表のものに限ります)。 次号発行予定日 令和4年3月1日

広報委員会

委員長 益塚賢治	副委員長 齋藤祐子	書記 高橋純子	会計 小川玲子	編集長 鈴木健治	副編集長 金宮和代	レイアウト 吉田祐一	矢澤敏一	校正長 足立由美子	編集委員 杉本和子	今井幸則	鈴木博	渡邊進	吉澤はる	木村克博	佐藤恒男	鈴木恒男	校正委員 芦田利恵	富澤久成	坂井成一	桐田幸一	鶴岡一郎	土屋幸夫	神野松枝	齋木安江
-------------	--------------	------------	------------	-------------	--------------	---------------	------	--------------	--------------	------	-----	-----	------	------	------	------	--------------	------	------	------	------	------	------	------